

●教育と福祉をつなぐスクールソーシャルワーカー(SSW)活用事業の充実について (SSWの仕事への責任の重さと待遇面の充実について聞きました)

答弁(教育長) SSW活用の充実に向けて研修会や指導的立場のスーパーバイザーからの指導助言ケース会議など実施。平成28年度の支援対象生徒数は1299人。この4年間で1.7倍となっている。今後も充実に努める。

非常勤としての働き方や重責を考え、それなりの待遇を整えて欲しいと思います。

●水道の民営化(閣議決定され、今国会でも審議されるという水道の民営化についての不安を質問しました)

答弁(環境生活部長) 熊本県は県内を6つの圏域に分け、熊本県水道ビジョンに基づき基盤強化を図る。国の動向を注視し、情報提供に努める。

空港のコンセッション方式とは違い、水はライフライン!私たち県民も水をもっと大切にするべき。そしてこの問題も少子化で人口減少だからという理由があるのです。

●文化財発掘調査の仕事をする熊本の企業に対して、熊本県中小企業振興条例に則り、企業の成長を促す要望もしました。



農林水産常任委員会で山口県の水産試験場を視察しました。山口には瀬戸内側の内海と日本海側の外海の2カ所あります。ちょうどの大雪で外海には行けませんでした。



白川の安全と立野ダムを考える流域住民連絡会の発足会で共闘する県議の一人として参加しました。



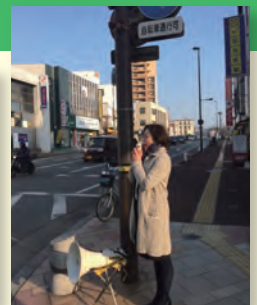
平和が一番!東区の間でも健軍終点で行動をしています。



菊池保健所で、動物愛護について視察をしました。菊池では野犬が課題でした。それでも譲渡対象になるようにと努力していました。



食とみどりと水を守る熊本県民会議が毎年行っている、アジア・アフリカ支援米の発売式が古町小学校で開催されました。子どもたちに命の元である水や森、食のつながりについてお話をしました。



健軍終点での街頭行動(辻立ち)は定期的に行っています。



インターンの声



これまでは自分の意見というものをあまり持っておらず、中立な立場をとることが多くありましたが、自分の考えや意見を持ち、それを発信するということができるようになりました。また、自分とは違った立場の方のお話を聞いたことにより相手のことを考え行動するようになりました。短い時間で視野がひとまわり成長することができたと感じています。
【県立大1年 あかね】

今回のインターンシップをとおして最も印象に残っている活動は「学校の働きかた改革を考える」の講演です。「自分がされて嫌なことはしてはいけない」「人の使命感と充実感につけ込む」というキーワードにはとても考えさせられるものがありました。私は将来小学校の教師になるので、この期間の活動を通して学んだこと、見てきた岩田議員の姿、元教師としての岩田議員のメッセージをこれからの人生に役立てたいと思います。【ルーテル大1年 ゆうた】

車椅子に乗ってみて初めて車椅子のかたの気持ちがわかりました。段差やちょっとした坂も支障があるし、操作も腕がいたくなります。速度の調整も難しいし、大変な想いをしているんだなあ体験することでわかりました。貴重な経験をさせていただいてありがとうございます。これからは車椅子の方の気持ちを考えていこうと思います。困っていたら助けます。
【学園大2年 けんた】

今まで私は生徒の立場として教育を受けてきましたが、インターン活動を通して教師の視点、個性という言葉の深さを認識しました。元大空小学校長の木村泰子さんがおっしゃっていた「教師が生徒を教える学校ではなく、生徒が教師や生徒に教える学校がよい」という言葉は記憶に残っています。互いに学び合い、自ら育つ教育の方針には感銘を受けました。個性を生かしつつ成長していく生徒をととても羨ましく思いました。私は教育のあり方を国がこの学校の取り組みに学んで改善してほしいです。
【県立大1年 りょう】